

評価方法

(1) 評価について

評価の達成については、絶対評価、相対評価、総合評価それぞれの区分により評価します。

	絶対評価 【目標値との比較】	相対評価 【ベースラインとの比較】	総合評価
判定区分	A 目標を達成	A 改善している	A うまくいっている
	B 目標の達成の可能性が高い	B おおむね改善	B ほぼ、うまくいっている
	C 目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある	C 変わらない	C あまりうまくいっていない
	D 目標の達成は困難で、効果があるとは言えない	D 悪化している	D まったくうまくいっていない
	E 評価困難	E 評価困難	E 評価困難

(2) 4つの評価区分

アウトカム(OC)、アウトプット(OP)、ストラクチャー(S)、プロセス(P)の4つの区分により評価を行います。

区分	概要
アウトカム (OC)	事業の目的や目標の達成度、または成果の数値目標を評価
アウトプット (OP)	目的・目標の達成のために行われる事業の結果を評価
ストラクチャー (S)	保健事業を実施するための仕組みや体制を評価
プロセス (P)	事業の目的や目標の達成に向けた過程(手順)や活動状況を評価

令和3年度個別事業評価

1. 特定健康診査

(1) データヘルス計画評価シート

評価			受診率(R2年度)			県内順位
絶対評価	相対評価	総合評価	国	県	津山市	H28-R2
C	D	C	33.7%	28.7%	28.0%	19位-17位

※R3年度はR4.5.31時点

事業名	事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ベースライン (H28年度)	実績					絶対評価
					H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
特定健康診査の実施と受診率向上	特定健康診査受診率 H32年度(R2年度) 45.0% H35年度(R5年度) 60.0%	OC	60.0%	29.2%	27.8%	29.4%	30.0%	28.0%	28.7%	
	・個別健診受診者数		—	3,184 人	3,234 人	2,858 人	2,713 人	2,549 人	2,497 人	
	・集団健診受診者数		—	872 人	842 人	1,127 人	1,039 人	829 人	918 人	
	40～50歳代の受診率	OC	前年度比 向上	17.4%	15.3%	17.7%	17.8%	15.6%	16.5%	A
	・簡易版健診の受診率	OC	1.00%	1.30%	0.40%	1.10%	0.70%	0.64%	0.53%	C
	・ナイトー健診の受診率	OC	1.00%	0.10%	0.10%	0.20%	0.30%	0.20%	0.30%	C
	未受診者対策 (国保ヘルスアップ事業) ・受診勧奨ハガキの送付	OP	10,000 人	10,260 人	9,009 人	10,312 人	10,246 人	10,150 人	9,632 人	B
	未受診者対策 ・重点取組地区の選定と対策	P	新規 1地区	新規 1地区	新規 1地区	新規 1地区	新規 1地区	—	—	E
	データ提供による受診率 ・個人(粗品/JA/人間ドック) ・医療機関	OC	2.00%	1.60%	1.60%	1.70%	2.70%	3.01%	3.56%	A
	医師会との協議 (保健対策委員会)	S	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	A
	健康増進課との打ち合わせ	S	定期的 開催	定期的 開催	定期的 開催	定期的 開催	定期的 開催	定期的 開催	定期的 開催	A
	対象者への受診券送付	OP	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A
	新規加入者への受診勧奨	OP	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A

(2) 特定健康診査の評価/見直し

【OC・OP】特定健診受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響で減少したため、R2年度は国-4.3ポイント、県-1.8ポイントと全体的に受診率が減少する中、市は-2ポイントと減少率を抑えることができた。令和3年度の受診率は回復傾向だが、目標には達していない。しかし、データ提供による受診率が増加しており、その中でも人間ドック受診者によるデータ提供が半数以上である。40～50歳代の受診率はR2年度より増加している。簡易版の健診は、コロナ禍による事業中止の影響から減少している。ナイトー健診は定員までいかないことが多く、目標に達していない。特定健診未受診者勧奨ハガキについては送付直後に予約数の増加や受診率の増加がみられている。

【S】津山市医師会との年2回の協議を継続実施している。また、庁内ではがん検診や保健事業を共同で実施している関係課と定期的に打合せを行い、細かな調整を行っている。

【P】未受診者対策としての重点取組地区への取組は、コロナ禍もあり実施できていないが、新規加入者への受診勧奨として、勧奨ハガキや国民健康保険団体連合会支援による在宅保健師「ももの会」による電話勧奨を行っている。また、健診未受診者の半数以上は生活習慣病治療者であり、医師会への協力依頼や、治療者への周知、働きかけを継続して行う。

2. 特定保健指導

(1) データヘルス計画評価シート

評価			受診率(R2年度)			県内順位
絶対評価	相対評価	総合評価	国	県	津山市	H28-R2
C	B	B	27.9%	17.9%	20.4%	12位-16位

※R3年度はR4.5.31時点

事業名	事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ベースライン (H28年度)	実績					絶対評価	
					H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度		
特定保健指導の利用と実施率向上	特定保健指導実施率 H32年度(R2年度) 45.0% H35年度(R5年度) 60.0%	OC	60.00%	15.80%	16.20%	16.40%	19.10%	20.4%	7.6%	絶対評価	
	特定保健指導実施数(対象者)	—	—	544人	468人	483人	476人	407人	419人		
	特定保健指導実施数(利用者)	OP	250人	96人	80人	92人	101人	95人	131人		
	特定保健指導実施数(終了者)	OP	250人	86人	76人	79人	91人	83人	32人		
	内臓脂肪症候群該当者の減少率	OC	前年度比 向上	21.9%	18.9%	18.8%	20.4%	15.9%	—		E
	実施医療機関数の増加	S	20 機関	17 機関	17 機関	16 機関	18 機関	17 機関	17 機関		C
	同日実施医療機関数の増加	S	10機関	—	—	3機関	7機関	6機関	8機関		C
	対象者全員に利用案内を送付	OP	全員送付	100%	100%	100%	100%	100%	100%		A
	未利用者対策 (国保ヘルスアップ事業) 電話勧奨を実施	OP	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		A
	利用勧奨の見直し	P	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		A

(2) 特定保健指導の評価/見直し

【OC・OP】令和2年度までの特定保健指導実施率は増加傾向にあり、対象者が微減傾向に対し実施者数の微増が影響していると考えられる。

令和3年度の特定保健指導実施率は、評価終了者が全数報告されていないが、利用者数は前年よりも増加している。

令和3年度から集団健診での同日実施を全ての会場や時間帯で実施したため、利用者数が増加している。対象者全員に利用勧奨を実施している。

【S】津山市内の実施医療機関については減少したが、同日実施機関は増加した。

【P】利用勧奨についての見直しを毎年行い、通知後電話による利用勧奨を実施しているが、無関心である場合も多く、関心はあっても実践に至らない者も多くいる。電話が繋がった場合には、健診結果の受け止めの認識や結果から想定される生活習慣について考えていただき、少しでも意識を高められるような工夫を行っている。

3. 保健事業(生活習慣病対策・医療費適正化)
 (1) データヘルス計画評価シート(生活習慣病対策)

◆糖尿病予防教室

事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ペースライン (H28年度)	実績					評価	
				H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	絶対	総合
糖尿病予防教室の実施	OP	年4回	年4回	年4回	年4回	年2回	年4回	年4回	B	A
・参加者数/対象者数	OC	20人 /回	92人 /895人	90人 /878人	128人 /878人	40人 /467人	41人 /970人	54人 /948人	A	
・基準を超える被保険者全員に利用勧奨	OP	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A	
・庁内連携体制の整備	S	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	A	
・啓発内容について検討	P	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	A	

(評価/見直し)

・保健師・栄養士の講話、ノルディックウォーキングの体験を実施しており、学びと体験により生活習慣を改めるきっかけとしている。令和3年度の参加者数は目標に達し、参加者アンケートでは毎回好評を得ており、それぞれが生活改善のための目標を決められている。糖代謝の指標であるHbA1cの基準を超える被保険者へ案内を送っているが、血糖が高いという意識を持っていない者もあり、早期から意識づけができ、自ら興味をもてるような勧奨の工夫が必要。

◆糖尿病性腎症重症化予防事業

事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ペースライン (H28年度)	実績					評価	
				H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	絶対	総合
糖尿病性腎症重症化予防事業指導完了率	OC	指導完了率 100%	88%	100%	100%	90%	100%	92.9%	B	A
検査値の維持・改善	OC	維持または改善	7人	15人	19人	18人	19人	13人	A	
・BMI			n=7	n=15	n=21	n=18	n=19	n=13	A	
・HbA1c			6人 n=7	9人 n=10	13人 n=14	15人 n=15	15人 n=15	10 n=10	A	
・eGFR n数は値が得られた者		3人 n=3	3人 n=3	7人 n=8	8人 n=8	6人 n=7	4人 n=5	A		
指導実施者数:終了者	OP	10人	7人	15人	21人	18人	19人	13人	A	
基準を超える被保険者全員に利用勧奨	OP	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A	
実施中の新規人工透析導入者数	OC	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	A	
終了後のフォロー体制の検討	P	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	A	
糖尿病治療中断者数	—	—	—	—	30人	58人	32人	46人	—	
その後の未受診者数	—	—	—	—	7人	11人	6人	16人	—	

BMI:肥満度により比較

HbA1c:7.0%以上の数値を0.5%ずつ区分し比較

eGFR:CKD重症度分類eGFR区分により比較

(評価/見直し)

・治療中の方を対象とした糖尿病性腎症重症化予防事業は、津山市医師会の協力と外部委託により実施しており、自分の今の状況理解や服薬の大切さ、主治医と相談しながら自己コントロールする力を6か月間で実践し、終了後も続けられている。

・令和3年度は1名途中脱退したため、指導完了率は92.9%だった。指導完了後、人工透析を開始したものは現時点ではない。参加者が終了後も継続した取組ができるよう支援する体制が必要である。

・糖尿病治療中断者数を把握し、受診勧奨後の経過把握を行っている。

◆慢性腎臓病(CKD)対策

※R3年度はR4.5.31時点

事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ベースライン (H28年度)	実績					評価	
				H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	絶対	総合
特定健診で要医療値かつ未治療者に対して、要医療勧奨を実施	OP	100%	—	—	100%	100%	100%	100%	A	B
医療機関受診率(全体) (内CKDに関する返信率)	OC	60.0%	—	—	12.1%	29.6% (69.4%)	21.3% (62.1%)	23.4% (43.9%)	C	
関係機関との調整 医師会・美作CKD-NET	S	実施	—	—	実施	実施	実施	実施	A	
CKD受診に関するシステム	P	作成	—	—	—	作成	作成	作成	A	

(評価/見直し)

・健診の検査結果から要医療値で内科を受診していない者へ、受診勧奨を行っている。令和3年度の報告は暫定値ではあるが、医療機関受診率は昨年度よりは改善している。慢性腎臓病に関しては、美作CKD-NETや津山市医師会との連携の中で、受診把握ができる仕組みを構築している。

・ポピュレーションアプローチとしては、津山市立図書館でのパネル展や図書館健康セミナーの実施、3月の腎臓病予防月間に市役所1階市民ロビーで啓発活動を行った。

(2)データヘルス計画評価シート(医療費適正化)

◆重複・頻回・多剤服薬者受診指導

事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ベースライン (H28年度)	実績					評価	
				H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	絶対	総合
指導実施後の改善率	OC	50.0%	58.3%	90.0%	33.3%	54.5%	33.3%	53.8%	B	B
受診指導実施率	OP	60.0%	66.7%	90.0%	41.7%	81.8%	50.0%	100%	B	
対象者へリーフレット等の送付	OP	100%	100%	100%	100%	100%	80.0%	100%	A	
庁内関係課等との連携体制の整備	S	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A	
周知方法について	P	実施	小冊子 広報津山	小冊子 広報津山	小冊子 広報津山	小冊子 広報津山 ブ라운バック 配布	小冊子 広報津山 市HP 研修会	小冊子 広報津山 アンケート 市HP	A	

(評価/見直し)

- ・同一疾患で複数医療機関への重複受診や頻回受診、同一薬効の医薬品を重複して処方され、長期にわたっている者に対して、心身の状態や生活状況を把握している。令和3年度は、対象者にアンケートを送付したり、返信がない者には訪問を行い把握した。
- ・健康状態不良や不安が高い者、生育歴や家族関係が複雑など、ていねいに傾聴していく必要がある。さらに、状況に応じて必要なサービスへ繋がられるように地域包括支援センターや健康増進課などの関係課と今後も連携していく。
- ・市ホームページに、ポリファーマシーについて掲載し、周知を行った。

◆医療費通知

事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ベースライン (H28年度)	実績					評価	
				H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	絶対	総合
医療費水準 ・医療費指数(全国平均=1とした時の指数)	OC	県水準	—	県 1.098 市 1.110	県 1.096 市 1.095	県 1.105 市 1.098	県 1.108 市 1.082	—	E	A
医療機関を受診した被保険者世帯へ送付 (送付件数)	OP	4回	6回	6回	6回 (61,649)	4回 (44,366)	4回 (42,475)	4回 (43,841)	A	

◆ジェネリック差額通知

事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ベースライン (H28年度)	実績					評価	
				H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	絶対	総合
ジェネリック普及率	OC	80.0%	59.05%	62.19%	69.16%	73.11%	74.54%	74.67%	C	B
対象者への通知率	OP	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A	
周知方法について	P	実施	小冊子 シール 市HP 市HP 広報津山	シール 市HP 市HP 広報津山	シール 市HP 市HP 広報津山	シール 市HP 市HP 広報津山	シール 市HP 市HP 広報津山	シール 市HP 市HP 広報津山 回覧	A	

(評価/見直し)

- ・年々1人あたりの医療費が高くなる中、医療費通知やジェネリック差額通知を対象者へ通知している。近年、医療費通知は申告書類として利用できることから、発行・再発行等の需要がある。
- ・ジェネリックの普及率は経年的に向上しており、対象者への通知の他、ジェネリックシールの送付、広報紙による適切な医療のかかり方、ホームページ等により啓発を行っている。
- ・ジェネリック普及率は目標には至っていない。
- ・対象者への通知は実施できている。
- ・周知については、一般的な啓発の他、重複・頻回・多剤受診事業や国保証送付等様々な機会を捉えて普及啓発している。

◆健康ポイント事業

事業と評価指標	評価区分	目標値 (R5年度)	ベースライン (H28年度)	実績					評価	
				H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	絶対	総合
健康ポイントの参加率	OC	20%	—	—	—	—	—	26%	A	A
健康ポイントの実施	OP	実施	研究調査	研究調査	研究調査	主要事業 要望	研究調査	実施	A	
事業体制について 健康増進課との協議	S	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	A	
健康ポイントの内容について	P	実施	研究調査	研究調査	研究調査	研究調査	研究調査	実施	A	

(評価/見直し)

- ・20歳以上の津山市国民健康保険被保険者を対象とし、令和3年度から実施した。
- ・要領、ガイドブック等を設けて実施。
- ・予算額上限である1,000人に対し、259人の参加があった。
- ・ポイント達成者からは、おおむね好評をいただいております、健康に対する意識が高まったとの意見が多く寄せられました。
- ・参加者、ポイント達成者が増加となるよう、チラシ内容、ポイント対象活動の見直し等が必要である。